

事業名 CD	0103020112	児童センター運営事業
細分化した事業名	0	
事業担当課室 CD	200300	福祉課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第 6 次長期総合計画での目的体系	大項目	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり	
	中項目	子どもを安心して生み、育てられる社会の実現	
	小項目	子育て支援の充実	
関連する個別計画等	0	根拠条例等	児童福祉法第 40 条/荏崎市立児童センター設置及び管理に関する条例
関連する事業	地域子育て支援センター運営事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	児童に健全な遊び場を提供し、健康の増進・情操を豊かにすることを目的とする。 昼間保護者が家庭にいない児童に遊びの場、生活の場を提供し、その保護者の就労を支援する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	0 歳から 1 8 歳までの児童及びその保護者
これまでの改善経過	平成 9 年 4 月 北東児童センター開設,平成 11 年 4 月 甘利児童センター開設 平成 14 年 4 月 北西児童センター開設,平成 16 年 4 月 荏崎児童センター開設
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 ○委託 ○補助金 ○その他 ( 0 )</p> <p>児童に健全な遊び場としての施設を提供するとともに、各センターに指導員を配置する。</p> <p>施設数 4 施設 開館日時 月～土曜日 9:00 から 19:00 (放課後児童クラブ 学校休業日及び長期休暇中 8:00 から 19:00)</p> <p>事業概要 子育て支援に係る各種教室の開催及び施設開放,地域子育てサークル支援,パソコン教室等の自主事業放課後児童クラブ *各小学校区ごとに児童センターを設置する。 既設置&gt;上記のとおり 未設置&gt;穂坂小(穂坂子ども教室)</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	全児童対策として遊びの場の提供、留守家庭児童対策としては安全な生活の場の提供により、児童の健全育成に寄与する。 利用者が自由に使える施設(スペース)の提供及び利用者相互(サークル)の活動支援。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19 年度	20 年度	21 年度
A	事業費 (千円)	31,779	32,840	35,308
財源内訳	国庫支出金			0
	県支出金	9,620	9,693	8,753
	市債			
	その他			
	一般財源	22,159	23,147	26,555
B	担当職員数(非常勤   職員 E) (人)	6.50 1.55	6.50 1.45	6.50 1.45
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	10,697	10,018	9,893
D	総事業費(A+C) (千円)	42,476	42,858	45,201
* 参考	H21)市民 1 人当りの事業コスト	1,409 円	H21)市民 1 人当りの行政サービス費用	579,596 円

注 1)担当職員数には、1 年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注 2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19 年度(6,901 千円),20 年度(6,909 千円),21 年度(6,823 千円)を使用しています。

注 3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	センター数・開館日数	(箇所)・(日)	(4)・(293)	(4)・(293)	(4)・(293)
	指導員数	(人) *1日平均	10	10	10
	センター延利用者数	(人)	52,276	51,626	46,222
	うち放課後児童クラブ員数	(人)	33,899	36,195	38,308
成果指標	1日あたり利用者数 (0~18歳) (算出式数値)	延利用者数/開館日数/施設数 (人) 46,222人/293日/4箇所	45	44	40
	// 放課後児童クラブ員数 (小学校1~3年のクラブ登録児童) (算出式数値)	放課後児童クラブ員数/開館日数/ 施設数(人) 38,308人/293日/4箇所	29	31	33
効率指標	1人あたりコスト(円) (算出式数値)	総事業費/延利用者数(人) 45,201千円/46,222人	813	830	977
	指導員1人あたりの児童受 入れ数  (算出式数値)	延利用者数/開館日数/指導員数 (人) 46,222人/293日/10人	17.84	17.62	15.77

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 午前中は子育て中の母親の利用が増えたこと及び、放課後の児童利用が定着したことは、二 ーズにあわせた環境を提供していると考えられる。	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 利用者とのコミュニケーションを図り、より良い環境づくりに心がけている。	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 常駐最低2名による安全確保を図りつつ運営できる最低限度の人員費としたが、保育士、保健 師、栄養士とセンター外のマンパワーを注入しつつサービスの質の向上ができた。	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・ 改革 案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	(1) 中長期的 放課後児童クラブの運営方法の検討 ・有料化の検討 ・子育てする保護者へのサービスを充 実させるなど、地域の子育ての拠点機能 を充実させる。	(2)23年度 新規開設の子育て支援センターをノウハ ウ提供の核とした子育て拠点としての充 実を図る。
	(3)22年度 ・安心子ども基金「開け！交流の輪事業」 により、父親参加の場を用意し、男性の 育児に対する関心を高め、また、地域の 人的資源の発掘により地域とのかかわり を深め、地域の子育て拠点としての機能 を充実させる。	
21年度の改善計画	午前中は3歳未満児と保護者の利用を促進し利用率を上げる。	
21年度の改善結果	保健センターに児童センター職員が外向き母子と顔見知りになる方法で利用促進を図った結果新規利用者の増加の傾向が見られたので今後も継続してゆく。	
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)	利用者が増加することにより、職員の増加が必要となるため、保護者やボランティア等の支援や育成も検討する必要がある。	
課長所見	利用者の二ーズも踏まえ、必要であれば、有料化(受益者負担)等運営方法の検討をする必要がある。	